

Ⅰ 急病のときの対応

2. 「咳がひどい、ぜいぜいする」など呼吸困難があるとき

家庭での処置

1. 本人が呼吸がしやすい楽な姿勢をとらせる。座位あるいは上半身を起こした状態がいい。
2. 部屋の湿度を上げる(洗面器などにお湯を張り蒸気を嗅がせる)。
3. 水を飲ます。
4. 背中をさする(呼吸と同時に前方へ押し出すようにさする)。
5. 乳児の場合、鼻水がひどければ吸ってあげる。
6. 発熱の有無を確認。



その後の対応



レベル1 家庭で経過をみる、又は翌日に病院受診

咳やぜいぜいが軽度で発熱もなく本人の機嫌も悪くない。食事もとれる。



レベル2 その時点で病院受診

高熱を伴う。会話が苦しい。咳き込みがひどかったり呼吸が苦しくて横になれない、眠れない。飲食が思うようにできない。

★喘息などの基礎疾患がある場合は、かかりつけ医の指示に従い対処するが、レベル2の状態が持続するときは、病院への受診をすすめる。



レベル3 緊急に病院受診、救急車要請

顔色、唇の色が悪い(チアノーゼ)。意識がはっきりしない。
ぜいぜいの音が小さくなる(呼吸音)。呼吸が楽にならない。

家庭で看る時のポイント

痰が切れないときは、背中や胸の上の方をとんとんたたいてあげます。
咳き込んで吐くときは一回にたくさん食べない様にします。寝る前は食べない様にします。

息を吸う毎にヒーヒー音がしたり、胸の下のところがペコペコ引っ込んでいたりすると、急性喉頭炎(クループ)が疑われますので早めに受診しましょう。

息を吐くときに大げさに肩を動かしていたり、浅く、短い呼吸や全身で呼吸しているようなときは喘息発作が疑われ、かなり苦しい時ですのですぐに受診するようにします。